

# 大腸内視鏡検査説明書・予約票

ID: \_\_\_\_\_ 氏名: \_\_\_\_\_ 様

検査予約日	年	月	日 ( )	[ : ]	:	_____ に来院してください
-------	---	---	-------	-------	---	-----------------

＜＜検査目的＞＞ 大腸（および回腸の一部）の粘膜を内視鏡（直径約 11mm）で直接観察することにより、大腸癌や大腸ポリープ、潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患を含めた大腸の病気を発見、診断するための精度の高い検査です。近年増加しつつある大腸癌の早期発見、早期治療には欠かせない検査となっています。

＜＜検査方法＞＞

- ①腸管洗浄剤内服・・・・・・・・ 腸管洗浄液にて腸管内をきれいにします。（自宅もしくは院内）
  - ②点滴・・・・・・・・・・・・・・ 脱水防止のため点滴を入れます。
  - ③鎮静剤・鎮痙剤注射・・・・・・ 鎮静剤（希望者のみ）、鎮痙剤（腸の動きを抑える薬）の注射をします。
  - ④肛門の麻酔・・・・・・・・・・・・ 肛門にキシロカインゼリー（麻酔のゼリー）を塗り、麻酔をします。
  - ⑤検査開始・・・・・・・・・・・・・・ まず大腸の一番奥（盲腸）まで内視鏡を挿入し、その後引き抜きながら観察をしてきます。途中必要に応じて生検（組織検査）やポリープ切除（希望される場合のみ）を行います。
- ※検査時間はおよそ 15 分～20 分程度、ポリープ切除がある場合は 30 分程度
- ⑥検査終了・・・・・・・・・・・・・・ 検査終了後ベッドで 20～30 分程度お休みいただきます。（鎮静剤使用時）
  - ⑦結果説明・・・・・・・・・・・・・・ PC で画像をお見せしながら担当医より結果説明をいたします。

＜＜検査の準備＞＞

●食事について

	検査前日	検査当日	
	夕食	朝食	昼食
<input type="checkbox"/> 午前検査	午後 8 時までに済ませてください	食べないでください	検査終了後
<input type="checkbox"/> 午後検査	日付が変わる前までに済ませてください	食べないでください	食べないでください

※水分の制限はありませんので来院されるまでとっていただいて結構です。（お茶・水・紅茶やコーヒー）

●検査前内服薬について

	検査前日	検査当日		
	プルゼニド _____錠	ガスコン 2 錠 ガスモチン 2 錠	常用薬※	腸管洗浄剤 (自宅服用の場合)
<input type="checkbox"/> 午前検査	午後 9 時に内服	午前 6 時に内服	医師の指示に従ってください	午前 8 時より内服開始
<input type="checkbox"/> 午後検査	夕食終了 1-2 時間後	<input type="checkbox"/> 午前 11 時に内服 <input type="checkbox"/> 午後 ( ) に内服		<input type="checkbox"/> 午後 1 時より内服開始 <input type="checkbox"/> 午後 ( ) 時より内服開始

※常用薬

- お薬はいつもどおり内服してください。
- ( ) のみ \_\_\_\_\_ 時に内服してください。
- 糖尿病の薬（インスリンを含む）は内服しないでください。
- ( ) は \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日より内服を中止してください。

<<その他>>

鎮静剤を希望された場合、車やバイク、自転車での来院はおやめください。診察状況によっては多少お待たせする場合がございます。ご了承ください。予約変更、取消は少なくとも前日（休診日をのぞく）までにご連絡ください。

<<生検（組織検査）について>>

検査中病変が見つかった場合、必要に応じて生検（組織検査）を行います。生検とは病変の一部を鉗子（かんし）という処置具でつまみ、顕微鏡で観察する検査であり、より精密な検査が可能になります。

<<ポリープ切除について>>

検査中、腫瘍性ポリープ（腺腫）や上皮内がんを認めた場合、希望によりポリープの切除を行います。当院では原則、高周波電流のような熱を加えずにポリープを切除する「コールドポリペクトミー」という方法で治療を行なっています。高周波電流を使用するポリープ切除と違い、血管の多い粘膜下層（粘膜の下に位置します）を傷つけずに粘膜の病変のみを摘除する方法なので、出血や穿孔の危険性が低く安全な方法といわれています。ポリープの形態・サイズ・性状によっては、従来通りの高周波電流を用いた治療や、入院での治療可能な施設へ紹介させていただく場合もあります。

※ポリープを切除した場合、以下の制限が必要となります。

●1週間の制限が必要

腹圧のかかる運動・遠方への外出や出張・長時間の運転・アルコールや香辛料などの刺激物、脂肪の多い食事など

●3日間の制限が必要

長時間の浴槽への入浴

<<偶発症について>>

腸管洗浄液・鎮静剤・鎮痛剤などの薬剤によるもの

大腸に強い狭窄がある場合、腸管洗浄液を内服すると、強い腹痛や嘔吐、まれに腸管に穴が開く場合がありますので、事前に腹部レントゲン撮影を行い、狭窄の有無などを確認します。

検査をより楽に受けていただくために鎮静剤や鎮痛剤を用いる場合があります。以前の検査時の苦痛の程度や年齢、体格などで投与量を調節していますが、呼吸抑制や血圧の低下、気分不良を生じる場合があります。しかしながら重篤なものは極めてまれです。

内視鏡検査にともなうもの

出血・・・・・・・・

血液をサラサラにする薬を飲まれている場合を除き、ほとんどの場合自然に止まります。万が一出血が強い場合にはその場で止血術（金属のクリップではさんとめます）を行う場合もあります。

消化管穿孔（腸の壁に穴があくこと）・・・・・・・・

非常にまれな合併症ですが、腹部の手術や放射線治療の既往、大腸多発憩室や憩室炎のある方で、腸管の高度な癒着がある方でおこる場合があります。

日本消化器内視鏡学会の全国調査（2008年～2012年）によると、偶発症発生率は0.005%、死亡率は0.00013%と報告されています。

万が一、偶発症が起きた際には当院で可能な最善の処置・治療を行います。入院や緊急の処置・手術などが必要になった場合には、対応可能な施設への紹介を含め、しっかりと対応させていただきますが、その際にかかる経費は、原則として患者さんのご負担となりますことをあらかじめご了承ください。

<<費用について>>

3割負担の場合

観察のみの場合

約 7,000 円

生検を行なった場合

約 11,000 円～18,000 円

ポリープ切除した場合

約 20,000 円～26,000 円